

児童の実態

本学級の児童は、学習活動に対して真面目に取り組むことができる。また、友だちからの意見を学習に取り入れようとする児童が多い。しかし、思いや考えがあるのに、言葉で相手に伝えていくことが難しいと感じている児童も少なくない。ペア対話を授業の中で多く取り入れ行っているが、一方的に自分の思いや考えを伝えるのみで対話が終わってしまうことが多く、話し合いに発展していないことが多い。

4月に行った標準学力調査の結果では、「話の中心を明確にするための話し手の工夫を聞き取る」の問題の正答率が73.3%と、全国平均を8.3%下回る結果になっていた。実際の授業においても、対話をするにあたって大まかな内容は捉えられているが、工夫までは詳しく聞き取れていない。このことから、人の話を聞くことに課題があるといえる。

単元デザイン

本単元における重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)ウ「話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。」である。児童は、「始め」や「終わり」を示して話の中心を明確にしたり、話す材料の収集・比較・選択したりすることを学習している。本単元では、心に残っている出来事についてスピーチをする活動を通して、自分が感じたことが聞き手に伝わるように工夫して話すことをねらいとしている。これまでの児童の話し合いは、自分の意見の出し合いに終始してしまい、友だちの意見を受け止めたり、グループとしての考えをまとめたりすることが難しい場面が多く見られた。そこで、本単元では身の回りで起きた出来事について、クラスみんなにスピーチをする言語活動に向けて、自分へのアドバイスを基に発表の内容や方法を見直す経験ができるように、ペア活動を設定した。今までに行ってきた班活動の中で、相手の意見を聞いてアドバイスを送ることが難しかったので、自分の話し方と比較しながら聞いてメモを取ることで良さや改善点を伝えられるようにしていく。

第一次では、日常生活の中から様々な出来事を想起し、出来事の様子と気持ちを分けてメモに詳しく書き、「初めに」「次に」「それから」「最後に」と話の構成が組み立てやすいようにする。第二次では、教師のモデルを見て良さや改善点を見つけ、気持ちを相手に伝えるためにはどのような工夫が必要なのかを学ぶ。嬉しかった時や悲しかった時の表情や声を共有し、自分の文章の中でどのように工夫できるかイメージを持てるようにしていく。また、一つの言葉をいろいろな言い方で話し、どのような印象を受けたのかを話し合うことで伝わり方の違いを確認し、どういった言い方をすれば相手に話が伝わるのか、考えられるようにする。話し方の工夫を確認する活動ではICT機器を活用し、自分や友だちの発表の様子を録画することで視点に沿った振り返りができるようにしていく。第三次では、聞き手を意識しながら話すこと、友だちの話し方の工夫について気付くことができるようにしていく。そして、本単元で身に付けてきた力を、次の「調べたことをほうこくしよう」の学習につなげていくと共に、年間を通して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方の工夫を意識できるようにまとめ、教室内に掲示する。

研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】心に残っている出来事から話題を決め、一文で短くまとめて表すことができるようにするために、ワークシートを活用する。
- 【自己存在感】友だちと話を聞き合う中で、話し方の良さを見つけることができるよう視点を示し、ペア活動を仕組む。
- 【共感的人間関係】聞き手を意識しながらスピーチをすることで、互いの工夫した点を見つけ、伝えることができる場面設定をする。

聞いてほしいな、心に残っている出来事(全6時間)

学習目標	【話題の設定 情報の収集 内容の検討】	【構成の検討 考えの形成】	【表現 共有】
学習活動	①学習の見通しを立てる。 ・これまでに経験してきた話し合い活動を振り返る。 ・学習計画を立てる。	②心に残った出来事から伝えたい話題を選び、その時の様子や気持ちをメモに書き出し組み立てを考える。	③一番伝えたいことを決め、それが話の中心となるように話す事柄を選び、組み立てを考える。
言語活動	身の回りで起きた出来事について、クラスみんなにスピーチしよう。		
見方考方	感じたことが伝わる言葉を選び言葉の抑揚や強弱、間の取り方、気持ちに合った声の表情を工夫すること。		

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。【(1)イ】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。【(1)オ】	・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。【A(1)ア】 ・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。【A(1)ウ】	・これまでに学習したことや話し合いの経験を生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもち、話の中心を意識して、粘り強く言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して、心に残っている出来事を話そうとしている。

単元の主な資質・能力

1・2年
伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。

3・4年
話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫すること。

単元の目標

【知識及び技能】
・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(1)イ
・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ

【思考力、判断力、表現力等】
・目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。A(1)ア
・話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。A(1)ウ

【学びに向かう力、人間性等】
・言葉がもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとすることができる。

本単元終了時の目指す児童像

自分が感じたことが聞き手に伝わるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話すことができる。

5・6年
資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

中1年
相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

4-1 **本時の目標** 出来事の様子や気持ちが伝わる話し方の工夫をすることができる。

本時における見方・考え方 聞き手にわかりやすい話し方に着目し、言葉の抑揚や強弱間の取り方などの工夫を考える。

<p>学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 復習 2. ポイントの確認 3. スピーチ練習 ペアから全体 4. ふり返し 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">ふりかえり</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声の強弱を使って友だちに伝えることができた。 ・ 抑揚を意識して話すことができた。 ・ 顔の表情を豊かにして話すことができた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">どんな工夫を使った？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き合うときは ・ 話し方の良い所は ・ もっとよくなりそうな所は ・ 伝わってきた気持ちは <p>「だいじょうぶ。」 「おはようございます。」</p> <p style="text-align: center;">↓ ↓ ↓ 心配そうな声で 悲しい声で 明るい声で</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 間の取り方 ○ 声の強弱、大小 ○ よくよう ○ 声の表情 <p>どんな声で読むといいかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫すること ○ 声の大きさ、目線、顔の表情、聞く人に伝わるように <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">話の中心が伝わるような話し方の工夫を考えよう。</div> <p>聞いてほしいな、心に残っている出来事</p>	<p>評価</p> <p>【思考・判断・表現】 表現・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができるか確認。 <p>B 評価 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫することができる。</p> <p>A 評価 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に加えて、身振りや表情を工夫することができる。</p>
---	--	--

つかむ・見通す

解決活動

ふり返し

◆前時の学習を想起する。

T: 前回どんなことを学習しましたか？
C: 伝えたいことを決めました。
T: 今回は話し方の工夫について考えていこう。何のために考えるのかな。
C: 聞く人に伝わるようにするため。気持ちを伝えるため。

◆本時の課題を知る。

話の中心が伝わるような、話し方の工夫を考えよう。

◆学習の流れを確認する。

T: 今の動画を見てどんな工夫が隠されているか見つけてみよう。
T: 工夫しているところは見つかった？
C: 声の大きさ、目線、間の取り方
T: 「大丈夫。」をいろんな言い方で言ってみよう
C: 伝わり方が違うと思う。
T: そうやね、これを声の表情と言います。「抑揚」や今まで付けてきた力、工夫を使いながら友だちと話し合ってみよう。

◆スピーチ練習をする。

T: 聞き手に話の中心が伝わるように練習をします。
※聞き合う際の視点を確認する。(声の表情)
※アドバイスをした後、再度スピーチ練習することを確認する。

◆スピーチ練習後、ペアでふり返しを行い、再度スピーチ練習をする。

※ICT 機器を活用し、視点をもったふり返しをすることができるようにする。
※一回目よりも良くなったところを友だちに伝える。

◆交代する。

◆話し方の工夫を共有する。

T: 話し合いの中でどんな工夫を使うことができましたか？
C: 声の強弱を工夫して発表することができた。
C: 声を大きく工夫することができた
C: 声の表情を使うことができた。
C: 友だちの目を見て話すことが少しできなかった。
※その工夫を使ってどうだったのか問うことで相手意識を持てるようにする。

◆ふりかえり

抑揚を使って話をすると話したいことが伝わった。
話し方を工夫して相手に伝えることができた。
もっと練習して、聞く人に分かりやすく伝えたい。